明和9年（1772）5月21日（陰暦）、現在の長谷小出ヶ谷地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届け出されました。掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、出土文化財展を開催しています。

文化財愛護シンボルマーク

第10回 出土文化財展

日時 平成26年6月11日(水)～6月15日(日)
午前9時から午後5時まで
※11日(水)・12日(木)は午後7時まで

場所 掛川市中央図書館　1階　生涯学習ホール

掛川市教育委員会　社会教育課

掛川古城の堀、奈良時代の土器捨て場を発見

掛川城跡

1．調査地　掛川市掛川
2．調査原因　消防署の移転
3．調査面積　2,600㎡
4．調査期間　平成25年５月～平成25年８月

調査では、中世（約500年前）の掛川古城の堀、奈良時代（約1,300年前）の土器集積坑、弥生時代中期（約2,000年前）の方形周溝墓、時期は不明ですが、柱の穴が四角形の建物跡が発見されました。

堀（西から撮影）

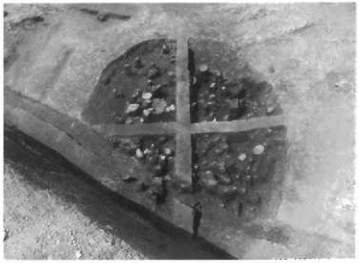
調査地点遠景

堀は、子角山を中心として築城されていた掛川古城の頃の横堀と考えられます。堀底が平らになっている箱堀で、幅は３ｍ、底の幅は約0.6ｍ、深さは１ｍありました。横堀とは外敵の侵入を防ぐためのもので、等高線に対して平行に造られました。

堀の断面

今回の調査では、堀に伴う他の遺構は確認できませんでした。もし、堀に伴う土塁があったとすると、当時の堀はもっと広く、深かったかも知れません。

土器集積坑は、長径3.7ｍ、短径2.6ｍの楕円形で、奈良時代の土器が多く出土しました。土師器の坏、甕、須恵器の坏、高坏、平瓶など様々な種類の土器が見られます。土器はまとまり無く積み重なり、ほとんどが割れた状態で出土したことから、土器を捨てた場所と考えています。



上器集積坑

方形周溝墓とは土壙（死者を葬った穴）の周りに四角く溝を巡らせた弥生時代のお墓です。今回の調査では周溝の一部が確認されました。周溝の中からは弥生土器が出土しています。

周溝から土器が出土した様子

四角形の柱穴の建物跡は、柱間が３間×１間で５つがＬ字状に並んでいました。柱穴の中や周辺から遺物が出土していないため、建物の性格や時期は不明です。

四角形の柱穴の建物跡

作業風景

和田岡古墳群　吉岡大塚古墳

1．調 査 地　掛川市吉岡
2．調査原因　史跡整備事業に伴う調査
3．調査面積　59.6㎡
4．調査期間　平成25年８月～平成25年11月

吉岡大塚古墳は、後円部は直径41.3m、前方部が幅27.5mの前方後円墳で、前方部が短い形が特徴の帆立貝型古墳です。古墳が造られた時期は、古墳時代中期（約1,600年前）と考えられています。

史跡整備に向け、古墳の内容を知るために行った調査で、今回は第６次調査になります。

吉岡大塚古墳遠景

作業風景

これまでの調査で、後円部は上段と下段の二段に築かれていたことが、わかっていました。その上段と下段の間には、テラスと呼ばれる平らな部分が巡っています。今回、後円部北側の墳丘を調査し、テラスは、1.2～1.4mのほぼ同じ幅でぐるりと回っていたことがわかりました。

また、北側調査区では葺石を確認しました。葺石とは、盛った土が崩れないように墳丘の斜面に貼り付けるようにした石のことです。葺石の多くは崩れ落ちており、墳丘上段の葺石は４～５段残り、下段の葺石は確認できませんでした。

葺石を検出した様子

葺石を検出した様子

崩れ落ちた葺石の間やテラスからは、円筒埴輪と朝顔形埴輪の破片が出土しました。これらの埴輪は、過去の調査でも出土しています。

墳丘を巡る溝を周溝と呼びます。周溝の外側に土手状の周堤があるように見えましたが、今回の調査で周堤ではないことがわかりました。ここから、須恵器の破片が出土しています。

埴輪が出土した様子

また、古墳が造られる前の土の層からは、縄文時代中期（約5,000年前）の土器が出土しています。この付近では、古墳が造られるずっと前から人が生活していたことがわかります。

吉岡大塚古墳の周辺には、墳丘と好対照をなす広大な茶園が広がり、良好な景観となっています。また、古墳の近くには県道が通り、交通の便は良好です。県道を走る車から墳丘を眺めることもできます。今後は、これまでの調査結果に基づき、この立地を活かした整備を進めるよう計画しています。

小学生の見学の様子

現地説明会の様子

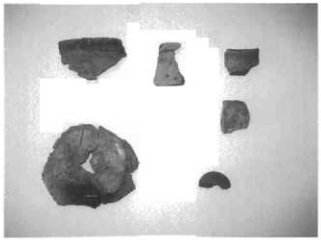
ここからは、平成25年度に整理調査を実施した遺跡を紹介します。

高田遺跡（第 33 次）

調査では、弥生時代後期（約1,800年前）の掘立柱建物跡１棟、小穴、溝が発見されました。また、煮炊きした炉の跡が確認され、竪穴住居跡があったと考えられます。

甕、壺、高坏などの土器の破片、土錘などが出土しました。

土器が出土した様子



出土遺物

高田遺跡（第 35 次）

調査では、弥生時代後期（約1,800年前）の竪穴住居跡が２軒、方形周溝墓が４基、古墳時代の土壙墓が５基、江戸時代の墓が２基発見されました。

鉄製品が出土した様子

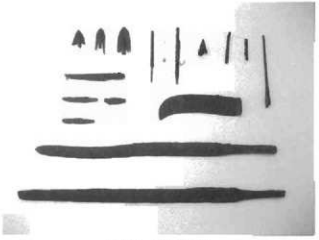
土壙墓４基の中から鉄製品が出土しています。鉄製品は錆びた状態で出土するため、そのままにしておくとさらに錆び、遺物が傷んでしまいます。そのため、これ以上錆が進まないように保存処理を行いました。

保存処理では、余分な錆が取り除かれたため、遺物の形がはっきりとわかるようになりました。

鉄製品（鉄剣）が出土した様子

鉄剣、刀子、鉄鏃、鉄鎌などの他、刀身が蛇が這うように曲がりくねった形の蛇行剣や鉄鐸といった掛川市内では珍しい遺物が確認されました。

鉄製品（鎌）を掘り出す様子



出土した鉄製品

開発予定地内に遺跡はありませんか？
工事計画の前に確認してください。

掛川市内には現在７０４遺跡が知られており、県内でいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの〝心のふるさと〟であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、**『文化財保護法』**により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり、完成が遅れてしまった――ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館には、市内にある遺跡の範囲を示した**『遺跡地図』**がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

掛川市教育委員会　社会教育課 文化財係
電話(０５３７)２１－１１５８